

# 人命重し

名譽生命財產は人生の最も大切なるものにして執れも  
 輕重す可らず或は特に名譽を重んじて財產生命にも換  
 之難しとて名の爲め失ふのみならず名の爲めに死する  
 の場合もなきに非ずと雖も斯る場合は實際に稀れにし  
 て社會普通の場合に於て第一に貴重なるものは生命の  
 安全に外ならず蓋し社會の文野を區別するに自から  
 種々の標準なきに非ざれども事實の最も著しきものは  
 生命の安否にして野蠻の國々に於ては奴隸僕婢の如き  
 雇主の生殺に一任するは無論、人文の漸く開けたる社  
 會にても我封建の時代には士族に切捨の特權を有した  
 るが如き人間の生命甚だ不安なりしに今日文明の政  
 法は最も此點に注意して生命安全の保護に就ては毫末  
 の掛念あるもなし即ち文明進歩の賜にして今世の人  
 々が前代先人に對して大に誇る可き所のものなれども  
 爰に我輩の遺憾に堪へざるは法律上には生命の安全な  
 るも右の如くなるにも拘はらず世間一般の風習に於  
 ては尙ほ未だ然らずして生命を見るも甚だ重からざる  
 の一事なり例へば鐵道もしくは馬車人力車にて人を  
 死傷せしめ又は何かの間違にて不慮の出來事を演ずる  
 は珍らじからぬ事にして日々新聞紙にも殆んど記事  
 を絶たず今後人事の繁忙交通の頻雜に隨てますます多  
 きを加ふるもなる可し是種の出來事は眞實の過誤失  
 策より生ずるものにして加害者に惡意なきは勿論なれ  
 ば被害者に於ても恰も天災同様と歸らざるの外ある可  
 らず如何にもす可らざるに似たれども西洋諸國など  
 ては斯る場合に被害者は單に賠償に止まるも終身の生  
 活に差支なきだけの補償金を加害者より得るの例なる  
 に我國の實際には賠償は勿論、假令死に至らしむる  
 も償金の内濟金やらるにて事濟みとなり被害者は恰も  
 死損に過ぎずとは驚入たる次第ならずや人間の生命は  
 固より錢を以て買ふ可らず不慮の變に遭ふて最愛の妻  
 子又は只管顧る可き父母を失ふが如きは實に生涯の大  
 不幸にして如何に金銀を積むも其不幸は到底回復す可  
 らざるものなれども實際他に手段もなきもなれば錢  
 を得て損害を償ひ又賠償の爲めに疲疾と爲りたるもの  
 如き終身の生活費を拂はしむるは今の社會に適當の  
 法と云はざるを得ず或は加害者が眞實實力なきものな  
 らんばは致方なれども社會として政府の如きは充  
 分補償の力あるにも拘はらず假令過誤失策と云へ  
 貴重の人間を死傷せしめながら自から損害の責に任す  
 るも重からずして世間には於ても尋常普通のこととして  
 償ひむものなしとは畢竟古來遺傳の習慣に外ならず  
 可し容易に改む可らざるが如くなればも我輩の所見を  
 以てすれば斯る習慣は進歩の社會に不似合にして斷然  
 改めざる可らざるのみか目下豫備の事を告ぐるの  
 必要ありと云ふは外ならず改正條約實施の際に外人  
 居住の國に於ては外人がいよ／＼内地に入居むるに  
 は權利の間に種々の交際を往するは勿論なる中にも時  
 として不慮の變に遭ふも或は死傷せしむるが如き  
 場合も多し然るも被害者は外人が人力車などにて  
 外國に於ては其の賠償に隨て尋常の金額  
 を得るも然らねば反動に外國人の馬車にて日本

人が死したるときなきは其處分を如何す可きや日本  
 固有の習慣に於ては内濟にて泣き入る爲る可き處なれ  
 ども對手が外國人であれば普通の例外として大に要求  
 せんか日本人同志にては不問に付しなから單に外人に  
 對して恰も法外の要求とせば社交上に彼我を區別したる  
 談にして彼等をして惡感情を起さしめざるを得ず或は  
 一視同仁、外國人に對するにも同國人同様にして生命  
 に関する大事件をも輕々に付し去らんか一應は美德に  
 似たれども結局彼等の心に日本人の生命甚だ重からず  
 との念を生ぜしめて輕蔑を招くに過ぎざるのみ何れに  
 しても事の妙を得たるものに非ず我輩の斷じて取らざ  
 る所なれば今後かゝる出來事の場合には被害者は容赦  
 なく損害の補償を要求し加害者に於ても其要求を至當  
 と認むるときは快よく承諾するもよし爲し以て速に人  
 命を重んずるの風を成さんと敢て希望に堪へざるなり  
 昨日豫備の對峙と題したる社説の七行目に一千メートルあるは三  
 千メートルの誤

## 時事小論

動物の虐使  
 鉄丸しば／＼民家に飛んで人を殺傷するも左はどの大事  
 と思はざる人民なれば況して動物の虐使など付て喧  
 しき物論の起らざるは怪しむに足らざるも仁慈動物  
 に及ぶは亦文明の象にして米國などには其虐待を防禦  
 する協會あり若しも牛馬等を酷遇するもわれれば痛  
 ぢめらるるは勿論或は小鳥など飼養して餌を與へざる  
 みどあるも慘酷なりとて非難し生きたがら魚類を焼く  
 さへ無慈悲として物類を生ずるはどの次第なり嘗て一  
 紳士が汽車に乗り彼れららんが爲めに馬に鞭を  
 鞭せ行かんせしに協會員に引留められ何故左様に虐  
 使するかなと詰問せられし爲め汽車の間に合はず非常  
 の損害を蒙りたりとて大騒ぎを惹起したるもどありと  
 云ふ日本人の夢にも思はざる所にして帝都の中央には  
 毛落ち皮破れて肉さへ露はれたる瘡馬に寒暑風雨の嫌  
 なく重き車を挽かして後より遠慮留釋もなくヒッ  
 ／＼と鞭撻して慘酷見るに忍びざるものあり暑中など  
 には其苦役は堪へずして斃死するもの少なからざれど  
 も雖もて入釜しく咎むる者なきは遺憾と云ふ可し仁愛  
 の道より云ふも市の體裁より云ふも厭視す可らず馬車  
 線には首府中央の線路を斷斷して利益も少なからず今  
 期には三割五六分も配當せんとし五十圓拂込の株券が  
 二百圓以上に賣買せらるるは是なるに何故斯る瘡馬を  
 虐使して人の仁心を犯し併せて市の美觀を害するか世  
 論靜なりと雖も人誰か慈愛の情なからんや他日物論の  
 標榜なきを期す可らず假令畜畜の返給として市の爲  
 めに特別の義務を負担せざるまでも切めては自家の業  
 業振うすけにても改善して仁人の心を寒からしむるな  
 からんことを望むものなり

を縛したるまゝ一歩も動しめず馬なども殆んど同様  
 して彼等の身に取ては堪へられた話に非ず何故斯の如  
 く不行届なるか費用乏しきが爲めか二錢の入園料は餘  
 りに難なり五錢又は十錢として改良の資に供するも可  
 なり或は元と園を設けたる所以は衆庶の樂ども爲り又  
 教育上參考の資ともなる可しとの趣意なれば総覽料を  
 高くす可らずと云はんか然らば當局者は今少しく錢を  
 奮發して規模を擴張し又改良して一層の娛樂と利益を  
 得せしめんも我輩の敢て希望する所なり

内地臺灣間の電信  
 海底電信の沈没は日本人に取ては初めての事業なるに  
 首尾よく全通の功を奏したるは我輩の甚だ喜ぶ所なれ  
 ども成功と同時に公衆電報をも取扱ふもならんと思  
 ひの外今後一箇月も経ざれば其運びに至らざる可しと  
 は不審に堪へず公衆電報の取扱を開始するには動令  
 を發せざる可らず且つ目下技師の手配不十分なりと云  
 ふも雖も此電信の開通は當局者の期したる所なる  
 可し前以て勅令の用意も技師技師の準備も兼ひ居る筈  
 なり假令以て又其成功、案外速にして準備の違なかりし  
 とするも勅令を發布するは遺作もなきもなり十日も  
 二十日も掛る可きに非ず技師者ども新に外國より雇  
 ひ來るに非ず内地に奉職の者を轉任せしむるか或は新  
 に任命するまでのもとならん是れ亦即座に辨す可し一  
 日千秋の思を爲して待ち受けたる其電信の利用を二十  
 日間も空とするとは國民の如何にも堪へ難き所なり

露西亞の計策及び目的 (承也)  
 十年前、露西亞は獨逸と秘密條約を訂結せり而して此  
 條約の事は獨逸と三國同盟の關係を有する他の二國も  
 共に知らざる所なり斯く露西亞は獨逸と結びた  
 る其一方に又佛蘭西とも好意を失はざりしなり是れ露  
 西亞に千八百七十五年獨逸の佛蘭西に加へんとする攻撃計  
 畫を露西亞の阻碍したる其意に基くものにて此時に持  
 續せるものなりと稱せらる然れども此等の事情を以て  
 して露西亞の力未だ弱く歐洲に稱するに足らず依然  
 として英吉利は其雄を保持し三國同盟の故を以て露西亞  
 孤立し同じく又獨逸、埃地利、伊太利の三國は露西亞  
 佛蘭西を疑ひて其互に相懼れ釋れる間に乘じ彼は土耳  
 其を利用して黑海の口を鎖し以て其埃及政略を行ひ  
 印度及び支那地方に商業の手を擴げ且つ阿非利加に於  
 ける膨脹をも計れり然るに今日に至りては露西亞は土  
 耳其に實權を有し獨逸及び埃地利と好意を保ちアピ  
 ニアに於て伊太利を覆し三國同盟を以て頼むに足らざ  
 るものとし佛蘭西と攻守同盟を結び以て全く英國を孤  
 立せしめたり是を以て露西亞は陽に希臘、土耳其の兩  
 國をして敵はざらしめんとするが如くなるも其實英國  
 を驅て希臘に與せしめんとし以て其間に彼は土耳其を  
 保護するを得しめて英國の埃及に對するが如くに土耳其  
 を其手に處せんもんと欲せり故に自己は其同盟者と共に  
 平和を唱へず一尙英國の希臘を動かさるるに至る  
 きが如く持懸け險に戰輪を擡へ土耳其及び君士坦丁  
 堡を占有し得るが爲めには一戰を切望せり然れども自  
 ら進んで戰を啓くも其好まざる所にて英國の先づ  
 動くを待てり實に今日希臘の蜂起たるや形勢上實に戰  
 争と稱するに値す故に英國の起つべき時は既に來れり  
 彼は今後より現時の方針なるべし現時に於ては彼

の態度は露に歐洲の海軍  
 も唯だ陸に於て英國は殆  
 の閉鎖は英領亞細亞帝國  
 死傷の並び至るありて益  
 西亞に取て其乘せんと  
 我輩は米國にありて露西  
 なり然れども其虛無無な  
 ては一般の信する所多く  
 の内亂の後に於て露西亞  
 を見而も其結社の原因ま  
 り即ちキエフクラックス  
 とは其所有の奴隸を奪れ  
 各づけたる稱にして解放  
 權の所なく之を濫用した  
 相軋りたり

露西亞は即ち露國のキエ  
 共に起れり貴族等はその役  
 勢力の上は大なる變化を  
 遂に多數の同志を糾合し  
 呼應して其勢甚だ大なる  
 政府を覆すも亦た難から  
 ザリを殺さんと謀りたる  
 甚だ強からず常に政府に  
 に出づると雖も尙ほ之に  
 曾て政府に反抗せんとす  
 府が露無黨に抵抗するに  
 るとなく又常に多數なら  
 り今日に至る迄露西亞家  
 易き學生の輩を以て其黨  
 の目的は漸次忘らるるに  
 傾き始めたり露西亞の政  
 民望を擧げらるるもあらず  
 至るも之に乗じて内國  
 の二分一にも及ばざる  
 今や果して歐洲の大戦争  
 の計策及び目的は此間に  
 希臘なるもの目的なくし  
 べく且つ一旦深入りした  
 來べからずと云ふまで  
 るべしと思はるるが如き  
 りとを敢てせざるべし彼  
 亞と關係する所あらざる  
 干渉を受くるもどあるを  
 當るの手段を盡せる後に  
 希臘は盲動せるが如きも  
 表面上相合同して平和を  
 面を覗ふものは其決して  
 るもんと覺知し大強國が  
 り戰爭も今日目前に迫れ  
 からずして露西亞なるべ  
 ○布哇の日本  
 昨年布哇の議會にては日  
 ゴンに付き十五仙なり  
 露西亞を全く無視とし本年  
 來より不慮の變なるを